

2024 年度第 4 回 神戸市子ども・子育て会議 議事要旨

日時：2025年3月11日（火）14時00分～16時00分

場所：三宮研修センター 8 階 805 号室

1. 開会

2. 報告

(1) 神戸っ子すこやかプラン 2029（案）に関する市民意見募集等の結果について

●事務局

資料 1 ～ 2 により説明。（省略）

○委員

- ・パブリックコメントは大事。言葉でも説明を受けている我々は事務局（市）の思いが伝わるが、文字だけで理解して意見を出してこられる方との気持ちの差異を埋めていく作業の大変さを感じた。
- ・計画完成後は、もっとたくさんの人に知ってもらいたいと思う。私どもも、子育て支援の活動をしながら地域に還元していけるような取り組みをしていければと思う。

○委員

- ・こども向けアンケートの意見募集で 4,767 件もの意見が集まったことに驚いた。市がこどもの意見を反映したことを伝え、自分たちの意見が反映されたことを知ることで、もっと意見を発していきたいという次のステップに繋がっていくのではと思う。
- ・資料 1 の P.5 の学童保育のスナック菓子の提供に関する市民意見について、市の考え方の回答が噛み合っていないのではないかと。この方は、スナック菓子ではなく神戸市ならではのお菓子を提供してほしいと言いたいのではないかと。神戸市のものを活用したお菓子を提供する余地があるのか教えてほしい。

●事務局

- ・こども向けアンケートの結果について、現在 HP に掲載している。計画が完成した際には、学習用パソコンを使って直接お知らせしたいと思っている。それ以外でも、さまざまな機会を捉えて広報していきたい。

●事務局

- ・学童保育のお菓子の提供について、委員ご指摘のとおり、少し噛み合っていないかもしれない。食べるものも大事だが、おやつのお時間をこどもたちが楽しんでいるということをお返事として伝えている。月額 1,500 円の中でお菓子を提供してもらっているため、買えるものにも限りがある。そのような中で、児童館の指定管理者がそれぞれに工夫をして、毎日とはいかないが、神戸市ならではのおいしいお菓子を提供できるように取り組んでいるところである。

○委員

- ・パブコメの実施について、すぐ一で配信されたとのことだが記憶にない。何度もクリックしないと情報に到達できないものではなく、一目見て分かるようにすれば回答率が上がるのではないかと思った。
- ・「中学生が学校外で友達と勉強したり交流したりする場所が少ない」「中学生も小学生の時のように思い切り遊びたい」など、一生懸命 SOS を出してくれている中学生がいるにも関わらず、計画的内容的には小学生までがメインになっているように感じる。中学生が大人として扱われ、切れ目のない支援ができていないのではと感じた。部活動もなくなり、中学生の居場所がなくなっていくのではという懸念がある。中学生の SOS も拾ってもらえたら保護者として嬉しい。

●事務局

- ・今後、分かりやすい見出しで、クリックしてもらえような工夫をしていきたい。
- ・中学生のことはもちろん大事に考えていて、今回、3つ目の柱に「中高生世代が主体的に活躍できる場と居場所づくり」というのを作成した経緯がある。また、後程説明する新年度予算の中では、中高生の意見をもとに、「まちなか自習室」や「スケートボード広場の整備」などの取り組みを盛り込んでいる。

○委員

- ・中高生の居場所を運営している団体で連絡会をつくっているが、そこでもコベカツの話はあがってくる。市と教育委員会と施設がそれぞれの立場から、社会教育の領域で何ができるのかを見定めながら、中学生の声を拾っていきたいと思っている。コベカツから漏れてしまう中学生が出てしまわないように、中高生の居場所づくり施設が支援できればと思う。地域と繋がって、地域で活躍する中学生が発掘できるようなプランニングをしていく必要があると考えている。中高生の居場所づくり施設の使命としてやっていきたい。

○委員

- ・こどもの意見を聞き、その意見が反映され、結果についてもこれからこども自身に返す方向で進めていくという回答が得られて非常に良かった。一方で、その意見が通らないこともある。その場合は理由をしっかりと説明してあげてほしい。どんなに幼いこどもでも意見をすることは責任が伴うということをきちんと分かってもらう必要がある。昨今、権利主張の強い大人が多くなっているように思うので、今のこどもたちはそうならないようにお願いしたい。

●事務局

- ・ただ聞くだけではなく、意見を聞いてもらうためには何が大事かを理解してもらうことが必要だと思う。意見が通らない場合も丁寧に理由を説明していきたい。
- ・社会的養育の関係でも、一時保護のこどもに対しては、第三者が意見を代弁するアドボケートの仕組みなどを用いて意見を聞いている。今後、それを計画期間中に児童養護施設に対しても広げていきたい。

○委員

- ・こどもたちの声を丁寧に拾っていただきありがたい。この計画ができるだけたくさんの人に周知されて、神戸で進めていく取り組みが伝われば良いなと思っている。資料1を見てみると、局を超えて丁寧に回答されていると感じた。意見が出るということは、市民にとって分かりにくいことだったり、気になることだったりすると思うので、情報発信していく際のヒントになると思う。例えば、P. 15 の 54 の市の回答の内容（子育て応援サイトやおでかけ情報サイトのリニューアル）は、この資料に埋もれてしまうともったいない情報である。子育て世代が欲しい情報、こどもが欲しい情報、若者が欲しい情報などが、情報を受け取る対象者ごとの視点で分類されていると分かりやすく、話題になり広がっていくのではないかな。

●事務局

- ・当事者目線が大事だとは分かっているが、なかなか取り組めていないのが現状であるため、とても大事なお指摘をいただいたと思っている。こどもの年齢ごとに情報が欲しいという声は、実際に多くいただいているため、こどもっと KOBE サイトや SNS で情報発信する際には、なるべく年齢タグをつけて情報に到達できるように工夫している。他にも記載にあるように、おでかけ KOBE のイベントサイトを昨年リニューアルし、予約までできるようにしている。外郭団体や指定管理者なども利用でき、大小様々なイベントの掲載が可能になっているため、今後はここに神戸市のイベント情報が集約されていくことになる。現在は、子育てのイベント情報を探す際、「子育て」というカテゴリから検索することになるが、乳幼児向けや小中学生向けなどのように、入り口を分けることができないか、まさに検討しているところである。

○委員

- ・日本経済新聞社と日経 BP による「共働き子育てしやすい街ランキング」で神戸市が1位になったことは企業の立場としても非常によかったと思う。人手が不足する中、採用活動も厳しくなっており、就職活動において働く場所も一つの大きな選択の要素である。子育て支援に対して企業が取り組むべきことはあり、一企業として、働きやすい企業であることはアピールできるが、拠点のある神戸が住み続けやすく、共働きでも子育てしやすいなどの環境面の充実は非常に魅力的に映ると思う。こういった取り組みをしていただいていることは企業としてもありがたいが、一方で、1位になった事実を知らない人もいる。もっと PR していただき、地域全体が活性化していければと思う。

●事務局

- ・今まででも切れ目のない総合的な支援に取り組んできていたが、広報の仕方には苦勞していた。今回「共働き子育てしやすい街ランキング」で1位になったことで、PR として出せるものができたと思う。現在は、新聞広告やラッピング電車などを使って「こどもっと KOBE」の広報を行っているが、今回新たに街中に貼れるステッカーを作成し、幼稚園や保育所などの施設で掲示していただいている。宜しければお送りさせていただくので、一緒に PR していただけると嬉しい。

○委員

- ・大変な作業だったと思うが、分かりやすい計画になったと思う。こどもたちの生の声が意見に出ており、良い取り組みだったと思う。本会議に出席させていただいて学びに繋がった。
- ・こどもの意見が実際に実現されていることが今後実感できるよう、事務的に難しい部分もあるかと思うが、例えば1年単位で取り組んだり、改良しながら取り組んだりするようになれば良いと思う。こどもたちも実感がわき、スピーディーに計画が進められているということが分かるし、「共働き子育てしやすい街ランキング」の1位も続いていくのではないかと思う。

○委員

- ・資料2の文言の修正提案の「子育てライフ」がカタカナ表記で分かりにくいとのことだが、「こどもとの生活」にすることで狭い意味になってしまうのではないか。「子育てライフ」とすると「人生」という意味にとれるので、子育ての主体である親が人生を楽しめるという意味になるのではと思った。
- ・資料1の市の考え方の末尾で「引き続き」という言い回しがたくさん使用されている。できていないことに対して意見が出ているのに、「引き続き」という言い方をされると意見者は不愉快なのではないか。「より一層」や「工夫します」など、違う文言にすべきではないか。
- ・教育委員会の回答は冷たいイメージを受ける。問題意識を持っているので、協力してあげたいと思っている保護者もいると思うので、「手が足りないので助けてください」などと言っても良いのではないか。
- ・来年度からは中学生の部活動の在り方が変わる。教育委員会の所管かと思うが、中学生の放課後の取り組みについて、本会議でも報告してほしい。実際に担う立場となるNPO法人などが立ち上がっているとも聞くので、そういった実情もご報告いただきたい。

○委員

- ・カタカナ表記が分かりにくいということで、「こどもとの生活」に変更されるとのことだが、一方で、「アタッチメント」という言葉が追加される部分もあって、矛盾を感じる。

●事務局

- ・事前に説明した委員の中にも、「子育てライフ」の方が読みやすいという意見の方がいた。元々、カタカナ表記に対する懸念の声もあったので、事務局で修正させていただいたが、どちらの方が良いか。思いとしては、委員ご指摘のとおり広い意味だと思っている。後日ご意見を頂戴できればと思う。
- ・「引き続き」という言葉の使い方や冷たい印象を受けるような文章については、受け手のことを考えて文章を発信していきたい。

●事務局

- ・コベカツについて、ご心配をおかけしている状況なので、来年度ご報告させていただ

ければと思う。

○委員

- ・こども向け版の計画の P.3 に「さまざまな理由から家族とはなれて生活するこども」や「成長がゆっくりなこども」、「障がいがあるこども」、「日本語が話せないこども」などの文言を入れていただいたことを嬉しく思っている。声が出せないこどもや、小さい声しか出せないこどももいる。病気や障害、社会的養護のもとにいるこども、外国籍や不登校などのこどもは様々な困難を抱えており、なかなか声を出しにくい。少数者であってもそういうこどもの声を拾って文章化することで、市民に意識していただくのは大事なことである。
- ・日頃からこどもの意見をちゃんと聞いてくれる人の話をこどもは聞く。大人との信頼関係がないと、こどもは意見ができない。こどもが意見を言えるかどうかは、大人側の態度や日頃の関わり方に深く関係していると思う。こどもが本心を言えるように、周りの大人や親がこどもの話をしっかり聞く姿勢を持つことが大切。

○委員

- ・「子育てライフ」の表記については、後日ご意見を頂戴するという事で、議長一任とさせていただきたい。
- ・大きく変更する意見はなかったため、今回の提案を最終案とさせていただく。

(2) 子ども・子育て支援関連施策（2025 年度当初予算）について

●事務局

資料3により説明。(省略)

○委員

- ・P.6 のフッ化物洗口について、学校によっては歯磨きが禁止されているところがあると思うが、全校の5・6年生が校内で一斉に実施するようになるということか。

●事務局

- ・家庭で洗口するための洗口液を配布するものである。

○委員

- ・各家庭に洗口液を配布したとしても、実際に洗口するだろうか。また、なぜ小学5・6年生が対象なのか。どのような経緯でこのような形で実施することになったのか教えてほしい。

●事務局

- ・細かい経緯は後日改めて回答するが、こどもの頃にフッ化物洗口した人は、しなかった人より大人になってからのむし歯が少ないとされており、全国で見てもその差は1.5倍となっている。また、全国の小学校児童の約35%がむし歯であると言われている(2023年度)。新潟県が、全国に先駆けてフッ化物洗口を実施した結果、12歳の永久歯のむし

歯数が全国最小という事例もあり、本市でもこの取り組みを進めていくことになった。

○委員

- ・歯磨き指導が効果的であるという検証はあるが、フッ化物洗口液の効果についてはまだまだ議論がある。予防接種もそうだが、医療行為は学校外で実施するよう教育委員会から言われている。学校の中で洗口するとなると課題も多いが、フッ化物洗口の実施は歯科医師会の強い要望があったと聞いている。また、全校の小学5・6年生を対象とはしているが、希望者に配布されるものと聞いている。

○委員

- ・フッ化物洗口液は危険性があるため、保育施設等では施錠できるところで管理している。家庭での管理をきちんとしないと事故が起こる危険性もあるため心配である。

○委員

- ・夏休み期間中の学童保育の受け入れを拡充いただけるとあるが、春休みや冬休みのみの受け入れについては検討されているのか。

●事務局

- ・昨年20か所で夏休み期間中のみの学童保育の受け入れを実施した。まずは夏休み期間中のみの受け入れ結果を検証するところから始めていきたいと考えている。

○委員

- ・短時間勤務やフレックス勤務を取得するなど、職場の環境が整っていると良いが、そうでない場合は（春休みや冬休みの子育てに）難しさを感じる家庭も多いと思う。受け入れ側の難しさもあると思うが、預けたいときに預けられる制度であれば安心して利用できると思うので、ぜひ検討いただきたい。

○委員

- ・春休みは年度替わりのタイミングで、辞めていく児童や新規に受け入れる児童の段取りなどがあるため、受け入れ施設側に余裕がない。児童館の一般来館では、昼食がとれるところもあるため、小学校高学年の児童が1日滞在することはできる。中1の壁といって、小学校高学年まで学童保育に通っていると、一般の子と分離されてしまっていて遊ぶことができなくなるといった問題もある。また、こども家庭庁では中学生のための放課後の居場所づくりを進めていく構想があるが、いつまでこどもを見守り続ける必要があるのかと疑問に思う。神戸市には各中学校区に児童館があるので、こどもが自立できるように各館が考えて取り組んでいる。

○委員

- ・P.6に里親委託の推進とあるが、里親委託率がなかなか上がっていない現状がある。広報・啓発はもちろん大事だが、今まで通りやっていたのでは変わらないように思う。社会的養育推進計画の見直しの年度になるので、今後どういったことをされていく予定なのか教えてほしい。

●事務局

- ・2024年度に年4回開催した「神戸市における里親委託推進のための検討会」では、市

内の里親支援関係者だけでなく、他の自治体で実際に里親委託の推進に取り組んでいる方にも参加いただき、様々な意見をいただいた。そこでの意見も踏まえ、来年度はこれまでできていなかったような、養育里親をアウトリーチ型でリクルートする取り組みや里親制度に関心のない方にも来てもらえるような市民フォーラムを開催するなど、今回策定する計画に基づいて実施していければと考えている。

○委員

- ・前半の話でもあったように、受け取る側に届かないと気付けないと思うので、さまざまなところで周知ができるように、協力していきたい。

○委員

- ・各方面への手厚い予算措置をありがたく思う。P.3の1か月児健康診査費用助成の増額の内容について教えてほしい。

●事務局

- ・これまで1か月児健診は保護者の自己負担があったが、国の補正予算により、神戸市では2024年10月から4,000円の費用助成を行っている。2025年度からは、国の予算が6,000円に増額したことに伴い、神戸市においても助成額を6,000円に増額するものである。

○委員

- ・今後は行政だけでなく、民間を活用した施策も増えてくるかと思う。民間の子育て支援施設も増えてきているので、市のホームページに掲載するなどしていくことが、これからの行政の役割ではないか。
- ・バスケットゴールの設置などの公園の整備に力を入れていくようだが、実際どのように子どもたちが利用しているのかなど、次回で良いのでご報告いただきたい。
- ・中学校給食の無償化や市外の高校に通う学生の定期代の無償化などに関する意見もあったが、神戸市がどれだけ多くの予算を措置して子ども・子育て施策に取り組んでいるかということをしっかりとアピールし、広報いただきたいと思う。

●事務局

- ・こべっこウェルカム定期便の事業では、子ども向けのプレゼントだけではなく、親子で利用できるサービス系のプレゼントとして、市内の民間事業者の協力のもと、神戸アンパンマン子どもミュージアム&モールや民間の子育て支援施設の利用券をラインナップに入れている。
- ・お出かけ先の施設情報を分かりやすく発信してほしいというニーズがあったため、もっともっとKOBEサイトの中で民間の施設も含めて掲載することができないか検討中である。公園情報については現在も掲載中ではあるが、バスケットコートのある公園やスケートボードができる公園についても、今後整備が完了したら検索できるようにする予定である。引き続き、分かりやすい情報発信に努めていきたい。

○委員

- ・民間施設を市が広報するということは、市の公認施設ということになるのか。

●事務局

- ・そこが難しい点であると考えている。現在は市の施設情報や外郭団体も含めたイベント情報などを掲載しているが、民間施設をどこまで掲載していくのかを検討していく中で、1つの方法として、こどもっとKOBEくらぶ部員の方がおすすめるお出かけ先施設などを神戸市が紹介する形で掲載することができないかと考えている。

○委員

- ・30年以上前は認可外保育所の一覧がホームページに掲載されていた。前例があるので可能ではないか。

●事務局

- ・認可外施設にも一定の基準があり、神戸市に届け出ていただいた施設は掲載している。そのような例も参考に、民間サービスの紹介も検討していく。

○委員

- ・他の自治体の話になるが、紙ベースで子育て情報を発信していた頃に、冊子作成の費用の一部を事業者にも払ってもらい代わりに、事業者情報を掲載するような形をとり、win-winの関係性を築いていたという事例もある。
- ・P.8「こどもの居場所づくり」のところに、食材高騰の影響を踏まえた支援を行うとあるが、これはどういうものか。

●事務局

- ・こどもの居場所については、活動費用に対する補助を行っており、食事提供を行っている場合は、その経費として食材購入費も含まれている。食事を提供する団体については、今般の食材費の高騰が活動に大きな影響を与えることから、補助額に加算を行うことを考えている。

○委員

- ・P.8の「まちなか自習室」は非常に良い取り組みだと思うが、どのような仕組みで検討されているのか。見守りの人はつくのか。
- ・教育委員会予算の中でP.12に「外国人児童生徒等の支援」があるが、就学前のこどものニーズはないのか。

●事務局

- ・カフェなどの夕方の来客が少ない時間帯を利用する想定で、事前に協力いただけるカフェなどに、使用できる席をあらかじめ指定していただき、利用者である中高生は、オンラインで事前に利用登録をすることで、オンライン上の登録証が発行される。協力店舗はオンラインの地図上で協力店舗を検索でき、訪れた中高生が店舗にデジタル登録証を見せると、指定されたスペースに案内される。店員が一般の利用客と同様に扱い、特別な対応は不要と考えており、通常の営業の中で中高生を受け入れてもらう仕組みである。

○委員

- ・無料で飲み物など提供されるのか。

●事務局

- ・2024年11月に試行実施した際は、セルフサービスの水を無料で提供してもらった。また、中高生向けのメニューを設定し、通常の半額で提供しており、それを注文する高校生もいた。店舗の認知や売り上げにも繋がるなど店舗側にもメリットがあったことから、協力いただいた店舗からは、事業化されるのであれば今後も協力したいという声をいただいているので、今後も協力いただける店舗を開拓していきたい。

●事務局

- ・資料に掲載はないが、保育所や幼稚園でも、特に中央区や兵庫区では外国にルーツを持つ子どもが増加しているので、5か国語に対応した指差し帳の利用や、KICCの同行通訳派遣サービスなどを活用いただいている。

○委員

- ・外国ルーツを持つ子どもが増えていく中で、そういった方々が日本の生活に慣れることに対する支援は十分であると思うが、就学前の子どもたちへの母語の支援というのが不十分に感じるので、対応を検討いただきたい。

●事務局

- ・直接は関係しないが、P.9「児童館のさらなる活用」ということで、来年度から新たに外国人などを活用した英語学習や国際交流の機会を提供する取り組みを児童館でも実施していこうと考えている。

○委員

- ・母語の支援が必要不可欠なものになっている状況はよく聞かし、NPO法人で母語の支援を行っているところも多いと聞く。
- ・以前、季節里親をさせていただいたが、受け入れる側にとっても学びになる経験だった。保育所に通う家庭でも必要になることもあると思うので、枠を超えた活動の推進もできるのではないかな。
- ・まちなか自習室はとても良いと思う。こども食堂も同じように街なかで実施できるようになれば、もっと活性化して良くなると思う。

○委員

- ・まちなか自習室について、住宅街やニュータウンにはカフェや企業があまり無く、また、市内の中学生は携帯電話を学校に持参することが禁止されている。オンラインで事前登録はできても、入店の際に登録証の提示が必要となると、携帯電話をこっそり学校に持参するか、一度自宅に帰って携帯電話を取りに行く必要があるのでは、現実的ではないように思う。仮にGIGA端末を利用するとしても、親の立場としては学習以外の用途に使用してほしくない。カフェの活用は神戸らしくて良いと思うが、中学校の空き教室などを有効活用することはできないのか。

○委員

- ・まちなか自習室の運用にあたっては色々工夫していただきたい。

○委員

- ・P.4「未就学児を持つ保育士のこどもの預かり支援」は「一千円」という表示だが、予算は無いということか。
- ・こども誰でも通園制度のモデル事業を1年間実施した。1回5時間を月にたった2回利用するなど、こどもたちに負担をかけないのだろうかと日々試行錯誤しながら実施してきたが、案外どの月齢のこどもでも3か月程度経つと、先生の顔を覚え、親ではない人にも愛着を持つことができ、改めてこどもの力は凄いということを感じさせられた。こどもの育ちももちろん大切だが、保護者に関しても職員との関係性が密にできるというメリットがある。就園前の保護者が保育所や幼稚園の先生と関わる機会は普段少ないと思うが、ここでの経験が入園・就学した際の先生との関わり方に役立つのではと思う。
- ・こべっこウェルカム定期便のプレゼントに民間施設の利用券が含まれていることは知らなかったのが驚いた。他の民間施設もぜひ入れていただければと思った。
- ・P.5「妊娠期から出産・子育て期まで一貫した伴走型相談支援・経済的支援」は、妊娠届出時と出生届出時にそれぞれ5万円ずつ支給されるもので、国の制度で決まっているためどうしようもないことは理解しているが、これが現金支給ではなく子育て支援・サービスの利用券という形にできれば、妊娠期の頃から家庭と地域が繋がるきっかけづくりになると考えている。
- ・一時保育利用者で、ネット予約ができないことから何度も施設に電話をかけないといけなくて困っている方がいらっしゃる。こども誰でも通園制度はネット予約が可能になるそうだが、一時保育も同じようになってほしいと思っている。

●事務局

- ・P.4「未就学児を持つ保育士のこどもの預かり支援」は、育休を取得した保育士が自身のこどもを保育所に預けて仕事復帰する際に、保育料の半額を貸付する制度である。実施にあたり必要となる財源は、実際に貸付事業を実施いただいている保育園連盟に2024年度以前に既に拠出しているため、2025年度予算には計上していない。
- ・一時保育の空き状況が分かるシステムについては、本市も同様の思いを持っており、検討していたが、国が今回こども誰でも通園制度で同様の仕組みを作ることなので、一時保育でも活用できるように国に要望しているところである。まずは国の対応を見守りたい。

●事務局

- ・P.5「妊娠期から出産・子育て期まで一貫した伴走型相談支援・経済的支援」について、当初国からは現金ではなくカタログなどのような形で支給するよう言われていたが、費用が嵩むほか、自治体の負担も大きいことから現金支給が原則となり、カタログのような形にすることもできると、制度自体の枠組みが変化してきた。委員ご指摘のとおり、こべっこウェルカム定期便の中では民間施設のサービスも利用できる。民間サービスの層が厚いところが神戸の強みだと思っているので、これからも様々な形でご協力い

ただけるよう今後も考えていく。

○委員

- ・P.9「児童館のさらなる活用」で、英語学習や国際交流の機会を提供するとあるが、保護者の中には英語を教えてくれる塾の代わりと思う人も出てきて、国際交流の意味合いが薄れてしまうのではないか。英語学習ではなく語学学習と幅を持たせた書き方にできないか。

●事務局

- ・外国人の方に来てもらって英語で触れ合ってもらうことで、外国の文化に触れてもらうイメージで取り組んでいく予定である。様々な言語がある中で、まずは英語で実施をしようと考えているが、今後モデル実施の中でどのように拡大できるか考えていきたい。

第4回 神戸市子ども・子育て会議 委員追加意見要旨

【柱4リード文の修正案（「子育てライフ」もしくは「こどもとの生活」）について】

- 「子育てライフ」の表記のママが良い。一般的に使用されている単語であれば問題ない。
- 「子育てライフ」の方がいい。「生活」は意味が狭くなる。
- 「子育てライフ」のママが良い。
- 「こどもとの生活」の方が良い。「こどもとの生活・関わり」でも良いが、シンプルに「もっと楽しく充実した子育て」でも良いのでは。「ライフ」はこどもでも理解できる和製英語なので、他の難しいカタカナ表記の見直しの方が大切ではと思った。

【その他】

- 良い意味で意見や希望を伝えることができる世の中になったのだと思った。意見一つ一つに神戸市の考え方として丁寧な説明をされている。今回の大きな成果は、こどもたちの声が聴けたこと。その中に、他者を思いやるような意見が多数あったこと、本当に嬉しく思った。
- 「できないことはできない理由もこどもに説明する」という意見はとても大切だと感じた。こどもに限らず大人の意見に対しても、「こういった理由で現状は難航している」と伝えた方が、意見を提出した方も納得しやすい。
- こどもにも「できること、できないこと」をフィードバックすべき。意見を出した甲斐があった、読んでもらった、という手応えもあると思う。そうすることで、神戸っ子すこやかプランをこどもも体得できると思う。また、ネット上の掲示板などでタイムリーにフィードバック（回答）があっても良い。意見を吸い上げても5年後の回答ではこどもは卒業してしまう。時間差はない方が特にこどもに対しては良いように思う。こども側からせつかく良い意見やSOSが出ているので、せめてSOSについてはすぐにすくってほしい。
- 辻褄があっていない回答があると思った。学童のお菓子の設問に対しても、月1,500円の予算があるということを回答に載せるのは難しいのか。限られた予算の中、地元産は難しいけれど…とあるだけで、理解を得られると思うし、むしろそこに感謝を抱く人もいると思う。役所事情もあるかもしれないが、その方が意見を出した人に対して誠実だと思った。
- 関心ある方からの意見なので、偏った意見も見られた。神戸市の考え方を基本的に区単位で

対応が必要なものもあった気がした。

- 「まちなか自習室」は、民間と連携し、かつ中高生の居場所づくりにもなる素晴らしい取り組みだと感じる。一方で、カフェと一括りにできず自由スペースとして不適切と考えられる場所もあるように思う。ビジネス等の勧誘や闇バイトにつながるような声かけ等、利用する中高生へのリテラシー教育もあわせて行っていく必要があると思う。
- 「まちなか自習室」について、住宅地や郊外だとカフェも企業もない。人口が多いところだとカフェは終日人で、中学生の人数を受け入れるスペースが用意できないのはいか。民間の協力を得て、中学校内で学童サービスのように見守りや自習室の管理などができないのか。
- 子ども・子育て会議でもコベカツの説明を行ってほしい。
- 乳幼児への支援は手厚くなった一方で、中学生になると部活がなくなり、こどもが大きくなると支援が手薄になる印象を受ける。
- 外遊びの推奨は親としても共感しているが、一方で、スポーツを望む中学生にとっては部活動が居場所だったのではないか。
- コベカツの委託組織が不明確で、事件が発生した場合の責任の所在が不明。また、指導者への不安や保険の問題、急な撤退リスクも考えられる。月謝や移動の問題もあり、経済的に参加を控える家庭も出てくるのではないか。
- 教員の働き方改革も重要であると思うが、顧問手当や教職員の増員、教員の時間差勤務などの方法で負担軽減することはできないのか。コベカツの実施でなく、検討費用でこれだけの予算を使うのであれば、その分を教員の手当ての原資にできないのか。
- 「コベカツ」について、現6年生には簡単な説明があったが、5年生以下には何の説明もなく、報道や噂が先行し、不安や不満が募っている。また、補助金が出ない中で、指導者が集まるのか。部活動を失ったこどもは、非行に走ったり、ゲームやスマホ時間が長くなったり、私立中学のこどもとの経験に差が生まれるのではないか。
- 神戸市公式イベントサイト「おでかけ KOBE」について、タグ付けなどによる年齢別のアイデアはとても良いと思う。使用感について市民の意見を反映させてはどうか。